

## Trigger 株式会社 第10期事業報告

以下の通りご報告いたします。

### 1) 第10期における当社を取り巻く環境

第10期(2022年11月1日～2023年3月31日)は決算期変更に伴い5ヶ月の変則期として進行しました。その中で日本経済環境につきましては、新型コロナウイルス感染症が、感染症予防法上の第5類引き下げられることが発表され、コロナ禍の終息が明確に意識され始めました。しかしながらウクライナ情勢に端を発した資源物価上昇は継続しており、国内消費財の価格にも深刻な影響を与えています。IT業界においては引き続き人材不足が加速しており、まだまだ企業のIT活用には課題が多い状況です。一方で生成型AIであるChat-GPTおよびその最新バージョンであるGPT-4が、IT業界におけるゲームチェンジャーとなるのではと、大きな話題になっております。今はまだ課題が多いAI技術ですが、今後技術開発やデータ蓄積が進むに伴ってあらゆる業界を巻き込んだ、歴史的転換が起きる可能性もあり、大きな関心をもって注視していくべきだと考えます。

そのような中、当社においては2022年10月の株式会社NSDからの資本受け入れを経て、NSDグループの一員として経営を進めるべく、運営方針を再整備し、NSD各部門と積極的に情報交換や協業の取り組みを進めております。具体的には営業部門における情報交換や共同提案、バックオフィス部門における経理業務のNSDへのアウトソース、新卒研修の合同実施などの取り組みが始まっております。また開発現場部門において新たに組織されたSalesforce開発を中心としたチームは、請負開発案件をこなしながら徐々に実績も上がってきている状況です。今後は前述の活動の更なる拡大に加え、最も大きな課題である人材採用および退職抑制の観点で、グループ全体も俯瞰した人材配置最適化やキャリア形成の取り組みを推進したいと考えております。

### 2) 経営数値

前項で述べた様々な取り組みは、第10期予算策定後に開始されたものも多く、施策の中には翌期以降を見越した要員再配置や、バックオフィス体制の拡充に向けた採用投資などの活動もあり、第10期は想定よりも低い着地となりました。ただ前年同期間との比較においては大きく成長しており、第11期でも着実に成長するよう事業推進して参りたいと考えております。

### 3) 第10期所感

第10期においては前期以前に獲得したお取引先との取引が拡大しました。新規クライアント獲得についてもNSDとの共同提案活動が開始されており、来期には案件化できるよう進めて参ります。また、既存のビジネスモデルに囚われることなく、新領域へのチャレンジも推進していく所存です。

また経験者採用がほぼ計画通りに進捗しており、来期成長の土台形成は着実に進んでおります。加えて営業や人事などバックオフィス体制も拡充させ、安定成長と統制強化を両立させながら事業拡大を図って参りたいと考えております。

以上

# 決算報告書

(第 10 期)

自 令和 4年11月 1日

至 令和 5年 3月31日

Trigger株式会社

# 貸借対照表

令和 5年 3月31日 現在

Trigger株式会社

(単位： 円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
<b>【流動資産】</b>	642,322,647	<b>【流動負債】</b>	223,046,387
現金及び預金	413,651,278	未払金	166,950,676
売掛金	219,989,132	未払費用	6,519,556
前払費用	8,682,237	未払法人税等	33,175,600
<b>【固定資産】</b>	6,363,197	未払消費税等	9,765,700
<b>【有形固定資産】</b>	380,139	前受金	4,620,000
建物附属設備	380,139	預り金	2,014,855
<b>【無形固定資産】</b>	383,058	負債の部合計	223,046,387
ソフトウェア	383,058	純 資 産 の 部	
<b>【投資その他の資産】</b>	5,600,000	<b>【株主資本】</b>	425,639,457
敷金	5,600,000	資本金	20,000,000
		資本剰余金	7,952,592
		その他資本剰余金	7,952,592
		利益剰余金	397,686,865
		その他利益剰余金	397,686,865
		繰越利益剰余金	397,686,865
		純資産の部合計	425,639,457
資産の部合計	648,685,844	負債及び純資産合計	648,685,844

# 損 益 計 算 書

自 令和 4年11月 1日  
至 令和 5年 3月31日

Trigger株式会社

(単位： 円)

科 目	金 額	
<b>【売上高】</b>		
売 上 高	784,505,429	
売 上 高 合 計		784,505,429
<b>【売上原価】</b>		
外 注 費	533,567,877	
合 計	533,567,877	
売 上 原 価		533,567,877
売 上 総 利 益 金 額		250,937,552
<b>【販売費及び一般管理費】</b>		
販売費及び一般管理費合計		149,414,603
営 業 利 益 金 額		101,522,949
<b>【営業外収益】</b>		
受 取 利 息	1,693	
雑 収 入	6,105	
営 業 外 収 益 合 計		7,798
<b>【営業外費用】</b>		
支 払 利 息	35,356	
営 業 外 費 用 合 計		35,356
経 常 利 益 金 額		101,495,391
税引前当期純利益金額		101,495,391
法人税、住民税及び事業税		33,175,858
当 期 純 利 益 金 額		68,319,533

# 販売費及び一般管理費内訳書

自 令和 4年11月 1日  
至 令和 5年 3月31日

Trigger株式会社

(単位： 円)

科 目	金 額
役 員 報 酬	14,500,000
給 料 手 当	93,513,128
法 定 福 利 費	14,360,750
福 利 厚 生 費	9,094
採 用 教 育 費	10,352,894
荷 造 運 賃	27,899
広 告 宣 伝 費	72,000
接 待 交 際 費	756,816
旅 費 交 通 費	2,735,450
通 信 費	3,965,833
消 耗 品 費	214,571
水 道 光 熱 費	271,474
新 聞 図 書 費	5,946
諸 会 費	49,650
支 払 手 数 料	2,409,553
地 代 家 賃	3,500,000
リ ー ス 料	79,500
保 険 料	95,960
租 税 公 課	71,700
支 払 報 酬 料	1,795,000
減 価 償 却 費	340,804
長 期 前 払 費 用 償 却	61,581
研 修 費	225,000
販売費及び一般管理費合計	149,414,603

# 株主資本等変動計算書

自 令和 4年11月 1日  
至 令和 5年 3月31日

Trigger株式会社

(単位： 円)

【株主資本】

資 本 金	当期首残高		20,000,000
	当期末残高		20,000,000
資 本 剰 余 金			
そ の 他 資 本 剰 余 金	当期首残高		7,952,592
	当期末残高		7,952,592
資 本 剰 余 金 合 計	当期首残高		7,952,592
	当期末残高		7,952,592
利 益 剰 余 金			
そ の 他 利 益 剰 余 金			
繰 越 利 益 剰 余 金	当期首残高		329,367,332
	当期変動額	当期純利益金額	68,319,533
	当期末残高		397,686,865
利 益 剰 余 金 合 計	当期首残高		329,367,332
	当期変動額		68,319,533
	当期末残高		397,686,865
株 主 資 本 合 計	当期首残高		357,319,924
	当期変動額		68,319,533
	当期末残高		425,639,457
純 資 産 の 部 合 計	当期首残高		357,319,924
	当期変動額		68,319,533
	当期末残高		425,639,457

# 注 記 表

Trigger株式会社

## 重要な会計方針に係る事項に関する注記

固定資産の減価償却の方法

①有形固定資産

定率法を採用しております。

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）及び平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備並びに構築物については定額法を採用しております。

②無形固定資産

定額法を採用しております。

収益及び費用の計上基準

収益は実現主義により、費用は発生主義により計上しております。

消費税及び地方消費税の会計処理

消費税等の会計処理は税抜方式により処理しております。

## 株主資本等変動計算書に関する注記

発行済株式の種類及び総数に関する事項

普通株式

前期末株式数	37,766株
当期増加株式数	
当期減少株式数	
当期末株式数	37,766株

## 一株当たり情報に関する注記

一株当たり純資産額	11,270 円 44 銭
一株当たり当期純利益金額	1,809 円 02 銭